



校歌・校訓・校木について

緑の溢れる学園にふさわしい校歌 中学生のあるべき姿を示した校訓
これからの時代にも大切にしたい宝物です

「眉山の桜うらゝに匂ひ 渭のつの若葉命ぞ映ゆる」で始まる本校の校歌は、初代校長：宮本村雄先生により作詞され、昭和24（1949）年10月16日に校歌発表式が開催されています。宮本氏は詩人としても有名で、『鳴門』の詩は、当時の文部省小学校唱歌に採用され、鳴門公園内には詩碑が残されています。

昭和25（1950）年になると、第二代校長の赤松春雄先生によって校訓「明朗・親和・自主・力行」が定められました。他ではあまり見かけることの少ない言葉「力行＝りっこう」は、努力して（力をつくして）行うという意味であり、中学校時代のあり方を示していると言えるでしょう。



校訓の石碑：中庭



鈴懸（すずかけ）＝プラタナスは、学校の木とされています。その由来について、昭和25年に発刊された校誌『すずかけ』の中に次のような文章を見つけることができました。

「……校庭にたくさんすずかけ（プラタナス）が植えられました。第2回の卒業生諸君の寄付してくださったものです。今に立派な木になって花の時も、丸い実の季節も私たちの学校を楽しい所にしてくれるでしょう……」

スクール・カラーの濃い緑色は、鈴懸の葉っぱの色をイメージさせるものです。セーラー服のネクタイ。夏服の襟の3本線。体操服の胸にある菱形の緑色であり、部活動のユニホームにも伝統の緑を基調にしたデザインが受け継がれています。